

平成 30 年度 生活支援体制整備事業実績報告書

真岡市社会福祉協議会

- P. 1 1 職員体制
- P. 1 2 各地区の取組
 - P. 1 (1) 真岡地区
 - P. 1 (2) 山前地区
 - P. 2 (3) 大内地区
 - P. 3 (4) 中村地区
 - P. 4 (5) 二宮地区
- P. 4 3 関連した取組
- P. 4 4 成果と課題

1 職員体制

平成 30 年度より、新たに嘱託 2 名を採用し、第二層コーディネーターとして配置した。

- ・真岡、大内、二宮地区 1 名
- ・山前、中村地区 1 名

第一層コーディネーター 1 名と合わせて、3 名体制での実施となった。

2 各地区の取組

(1) 真岡地区

①アンケート調査

生活支援体制整備事業実施に向けて、地区社協会長に相談したところ、まずは、地区内の実態調査を行うことになる。

地区内の区長及び民生・児童委員に対し、地域の高齢者が抱える課題や、地域活動の核となる区の取組と課題について調査を行った。

また、調査結果については、区長、民生・児童委員に配布した。

※別紙：生活支援体制整備事業検討資料
真岡地区

②意見交換会

□5 月 29 日 総合福祉保健センター
9 名参加

東部・西部民児協役員と調査結果を基に意見交換会を開催した。情報の共有と今後の展開について意見交換を行ったが、具体的な提案にはいたっていない。

□8 月 20 日 総合福祉保健センター
6 名参加

2 回目の意見交換会を開催した。グループワークにより、課題と必要な取組の抽出を行った。

※別紙：東部西部地区に分かれたグループワーク実施結果

(2) 山前地区

①いきいきプラン山前

□第 1 回会議 6 月 8 日 山前分館
委員 20 名参加

1. 委員長及び副委員長を選任

委員長 沖杉委員

副委員長 大根田委員

2. 見守り実施状況調査

平成 28 年度から進めている地域の見守り活動の実施状況を調査することに決定した。

3. 部会の設置

事業所を拠点とした居場所作りについて、5 介護事業所と 2 郵便局で部会を構成し、協議を進めることになった。

□第 2 回会議 8 月 21 日 青年女性会館
委員 16 名、高校生 15 名 計 31 名参加



1. 見守り実施状況調査結果報告

見守り活動の実施状況調査結果から、12 区中 8 区は何らかの形で見守りに取り組んでおり、3 区は検討中、1 区は日頃の自治会活動から十分見守りができているとの回答であった。

2. 見守り活動実施区の参考資料紹介

3. 介護サービス事業所等を拠点とした居場所作り

Happy berry project の参加者である高校生 15 名も参加し、グループワークを行った。

4. その他

鹿沼市社会福祉協議会から協議体視察の依頼があり、2 名を受け入れた。

□第3回会議 3月15日 山前分館

委員16名参加

1. 先進地（和久井亭）視察の報告

12月に部会で実施した和久井亭視察の報告を行った。

2. 居場所作り

グループホームふれんど真岡を拠点とし居場所作りを進めることに決定し、実施にあたり住民の協力体制を整備するためボランティアを募集することになった。募集は、区長の協力を得て回覧を行う。

また、商品の仕入れ販売等には、山前地区商店会の協力を得られるようコーディネーターが調整を行うものとした。

3. 次年度スケジュールの決定

②いきいきプラン山前部会

□第1回会議 7月18日 山前分館

委員6名参加

居場所作りにあたり、事業所が協力できる時間、場所、人材等の確認とどんな居場所にするかを協議した。

結果は、第2回いきいきプラン山前に報告した。

□第2回会議 9月21日 山前分館

委員8名参加

居場所作りについて継続協議

□第3回会議 11月12日 山前分館

委員9名参加

居場所のイメージ作りのため先進地を視察することにした。

□先進地視察 12月21日 和久井亭

委員3名参加



□第4回会議 2月15日 山前分館

委員6名参加

グループホームふれんど真岡にて駄菓子屋を実施することにし、ボランティアを山前地区で募ることにした。具体的方法については、第3回いきいきプラン山前で協議することにした。

(3) 大内地区

①事前協議 5月22日 大内分館

6名参加

大内地区区長会会長、民児協会長と協議体の展開について意見交換した。

1. 事業概要説明

2. いきいきプラン山前の事例紹介

3. 展開スケジュール

協議体設置の前段として、区長、民生・児童委員、地域福祉推進員を集め、高齢者等の課題に対する意見交換会を開催し、事業の周知を図りながら進めていくものとした。

②意見交換会 8月9日 大内分館

区長6名、民生・児童委員13名

地域福祉推進員11名 計30名参加

1. 事例紹介

2. 意見交換

大内地区の課題や必要な取組についてグループワークにより意見を抽出したところ、「見守り」、「移動手段の確保」、「居場所作り」が今後必要な取組であるとの意見が多かった。

③選考会 11月14日 大内分館

区長会、民児協役員5名参加

1. 協議体委員候補者の選出

2. 協議体設置のスケジュール

委員候補者に対し、就任承諾を得るため、社会福祉協議会で訪問することにした。

④しあわせずーっと大内

□第1回会議 1月10日 大内分館
委員 25名参加



1. 委員長及び副委員長を選任
委員長 阿久津委員
副委員長 柳田委員
2. いきいきプラン山前の事例紹介
3. 協議体名称の決定
「しあわせずーっと大内」に決定
4. 意見交換会の報告及び推進スケジュールの決定

(4) 中村地区

①事前協議 5月23日 中村分館
6名参加

中村地区区長会会長、民児協会長と協議会の展開について意見交換した。

1. 事業概要説明
2. いきいきプラン山前の事例紹介
3. 展開スケジュール

協議体設置の前段として、区長、民生・児童委員、地域福祉推進員を集め、高齢者等の課題に対する意見交換会を開催し、事業の周知を図りながら進めていくものとした。

②意見交換会 8月27日 中村分館
区長 15名、民生・児童委員 19名
地域福祉推進員 18名 中村郵便局 1名
計 53名参加

1. 事例紹介
2. 意見交換

中村地区の課題や必要な取組についてグループワークにより意見を抽出し

たところ、大内地区と同様に「見守り」、「移動手段の確保」、「居場所作り」が今後必要な取組であるとの意見が多かった。

③選考会 9月26日 中村分館
区長会、民児協役員 9名参加

1. 協議体委員候補者の選出
2. 協議体設置のスケジュール

委員候補者に対し、就任承諾を得るため、社会福祉協議会で訪問することにした。

④ぷらーっとホーム中村

□第1回会議 12月20日 中村分館
委員 25名参加



1. 委員長及び副委員長を選任
委員長 篠崎委員
副委員長 森永委員
2. いきいきプラン山前の事例紹介
3. 協議体名称の決定
「ぷらーっとホーム中村」に決定
4. 意見交換会の報告及び推進スケジュールの決定

□第2回会議 2月14日 中村分館
委員 24名参加

意見交換会のテーマを基に取り組んでいく活動について協議した。

1. 見守り活動の事例紹介

郵便局が有償で行う見守りサービスと三ツ谷区が実施している活動を紹介していただいた。

2. 居場所作り

ふれあい・いきいきサロン事業と山前の部会が行った和久井亭視察の結果

を報告した。

3. 移動手段の確保

送迎を地域住民で実施する方法があるが、担い手の確保や費用負担等の問題がある。その他、移動販売の可能性などについて協議した。

4. 活動の方向

グループワークにより、それぞれの項目ごとに意見を出していただいたが、最初に取り組みべき事項の決定にはいたらなかった。

次回会議では、コーディネーターが取組を提案し、会議で掘り下げていくことに決定した。

(5) 二宮地区

組織的な動きには、いたっていない。

区長会長への働きかけから得た理由の一つには、地区の捉え方があげられる。

①区長会長との意見交換

12月、区長会長宅を訪問し、協議体設置に向けての意見交換を行った。

元々、久下田、長沼、物部の3地区だったものが、市町合併により一つになった。当時の3地区の感覚が残っているので、協議体の設置にあたっては、3地区での設置も踏まえた上で、慎重に進めてほしいとの意見をいただく。

②区役員訪問

1月から2月にかけて、二宮地区区長会役員宅4件を訪問し、事業の概要と二宮地区の高齢化率等の説明を行った。

また、協議体の設置方法についても意見交換を行った。

③今後の取組

区長会役員及び民児協役員により、意見交換会を開催し、事業の周知を図りながら、協議体設置を進めていきたい。

3 関連した取組

(1) 区カルテ作成

本事業を進めていくうえで、区長と顔の見える関係の構築や区での取組、抱えている課題、資源について把握する必要があると考え、訪問による区カルテ作成を行った。

□訪問実績

真岡地区	26区中12区訪問
山前地区	12区中4区訪問
大内地区	16区中12区訪問
中村地区	21区中11区訪問
二宮地区	59区中5区訪問
全134区中	44区(32.8%)を訪問

(2) Happy berry project との連携



生活支援体制整備事業では、地域活動の担い手を確保するために、高校生等の若者に活動に参加してほしい。一方、Happy berry project では、実際の地域活動に高校生を参加させたいというニーズがあった。一時的なものではあるが、双方のニーズを満たす形で連携して事業を実施することができた。

4 成果と課題

山前地区では、経常的な取組に向け、介護サービス事業所、山前地区住民の動きが出てきた。また、新たに大内地区、中村地区に協議体を設置することができた。

一方、真岡地区と二宮地区については、協議体設置にはいたらなかった。引き続き、協議体設置に向けて働きかけを行っていきたい。